

第4回勝山市総合行政審議会(第16期)議事録

日時:令和3年9月2日(木)午後7時~午後8時

場所:勝山市役所3階 第2、3会議室

【第4回審議会】

1 開会

2 議事

《事務局による資料説明》

ブレインストーミング

○山内委員 山内です。とりあえず言いたいこと、思ったことを言わせていただこうかなと思います。

住みやすい勝山という点で、移住者ではなくて、まず定住者をどうやって増やしていくかということが本来は必要なのかなという風に私は思っています。移住者に来てもらえるとももちろんありがたいのですが、なかなか他所から来てくれるよりかは、なるべく出て行かないように、勝山で住んでもらえるようにするためにはどうしたらいいのかなという風に私は少し考えます。

それと高齢者と若者ということで、出来る出来ないは別で、例えば声掛けとか挨拶とかですが、地区でも声かけ、おはようとかを言うことで、年配の人と若い人が触れ合う機会があったらいいなって思います。

朝の登校時に交差点で見守りの人とかもいらっしゃるのですが、そういうところに時間のある高齢者、仕事辞めた人にいてもらって、子供と接することで、若い人も高齢者も触れ合う環境があるといいなという風に思っていました。

後は勝山市は色々な職場があるので、地元企業を説明する冊子(いんころ)も作って、そういうところに力を入れていると思うのですが、地元企業への職場体験をすることで、地元でこんな企業があるのかということをもっと、高校生だけじゃなくて小中学生とか、若い頃から認識してもらって「地元企業もいいな」ということが考えられるかなということも思っていました。以上です。

○松田委員 松田です。8月に、市長や教育長が市内の各地を回って、今後の勝山市の基本理念について、中学校の統合について説明会をされていました。地元のPTA 会長に参加してくださいと呼ばれまして、参加して話を聞いてきたのですが、市

長と教育長がやろうとしてる事というのがなんとなく分かりました。

観光産業もやりたいと市長は言っていて、教育長は中学校を勝高と統合して勝高の中に恐竜学科を作りたいと言っていました。つまり市は、教育と併せて勝山を観光のまちにしたいというふうに動いているということが分かりました。

私は観光はそこまで公がやることがないという立ち位置なので、そうかなーと思って聞いていたのですが、市長も教育長も子供の教育、高校まで取り込んで観光を進めて行くのであれば、もう勝山市の名前は恐竜市にするといいんじゃないかな、そこからじゃないかなと私は思いました。あの話を聞いていて、恐竜市にしてしまえば後はもう特に何も決めなくてもみんな動くと思って、おそらく今後 10 年 20 年でやることで一番大きなことは何かと言ったら、勝山市の名前を恐竜市に変えることが多分一番いいんじゃないかなという風に感じました、というのがこの 1 カ月間です。

○塚本会長 ありがとうございます。

将来的には恐竜関係の学部、学科を作りたいという意向があるみたいですので、その辺りとうまくできれば、恐竜を研究して仕事を見つけるみたいな出口戦略も出来ると面白いと思います。

○織田委員 ブレインストーミングという事で、私も最近聞いたお話を少しさせていただきたいなと思います。

先ほどの安心して住める町、今いる方々が価値を感じて住める、また移住者が来ていただいて住める町、というところがポイントになってくるかなと思います。

移住者の方の話で、スキーがあってスキーが好きだから勝山に住みたいという方がいらっしゃったみたいなのですが、現実的に住む場所が確保できずに隣町の大野市に移住されたという話を 2 件ほど立て続けに聞きました。

具体的にどうしていくかということもそうなのですが、それをできる人材であったりとか、そういうところも含めてしっかり考えていけないと思います。

企業としては、人材確保も含めて、どういった人材が必要なのかとかって日々考えてはいるのですが、住みよいまちづくりというところにすごくコイントスを感じた出来事がありましたので、お話をさせていただきました。

あと観光に関しては、本当に難しいなと私は正直思っています。恐竜と、恐竜の勉強をした方々が、じゃあその先まちをどうやって盛り上げていくのかな、というところも現実にはあるのかなと思います。

もう少し現実的な話もしながら、恐竜学科もあっていいかなと思うのですが、そういうところで、観光メインというのは、現実的な部分はまだまだ遠いのかな、と感じております。

あとやりたいことが実現できるまちというのが、何を示すかにはなるのですが、やり

たいことを実現していくということは、それを一人ではなかなかできないというのがあると思います。

手にする場所であったり、話をして、例えばイノベーションが起きる場所であったり、そういうところが具体的にできると本当に面白いな、と思って資料を見させていただきました。

●未来創造課 辻 ありがとうございます。

住む場所がないというのは川端委員からもご指摘を頂いていまして、事例を持ってメールで書いていただいていたと思うのですが、川端委員、何か補足もあればご紹介いただいてもよろしいですか。

○川端委員 私自身、家を建てる予定だったのですが、住むところが無く、子供が通う学校ではなく、隣の学校の校区に家を借りて送り迎えをしていました。

私の友人も同じように住む場所が無く、希望していた地域に住めず、離れた所に住むことになり、そのため少しフォローすることが難しくなっていました。

色々な所を回って家を探したのですが、本当にアパート自体がなく、空き家はたくさんあるのですが、賃貸じゃなくて買わないといけないという状態でした。

一度考えてみて、どんなところだろうというのをまず知らない、そこに定住ということとはなかなかないかなと思います。

ここに来ていきなり家を買うというのは、仕事も安定していないし住宅ローンを組みにくい状態の方もたくさんいらっしゃると思うので、まず購入ではなく賃貸で住める場所を、たくさん確保するといいいんじゃないかなと思いました。

空き家がたくさんあるので、まずはそこを賃貸で貸し出して住んでもらって、勝山の良さを知っていただく。そこからじゃないかなという風に思います。

○中村委員 今川端委員がご指摘された点については、ALTの先生に平泉寺区に住んでもらおうということで、平泉寺区の空き家を確保しようと努力しているところなのです。空き家は確かにたくさんあります。でも持ち主の方にそういう状況があるということが全く伝わっていないんです。持ち主の人にその需要があるんだよということを伝えることも非常に困難である現状なのです。

今の川端委員の指摘はものすごく大きなポイントだなと聞いていて思います。

例えば、具体的に言うと、今平泉寺では水洗トイレじゃない空き家があって、でもALTの方は水洗が絶対条件だとおっしゃいます。ところが空き家の方はもうそこまで設備投資をするつもりがないんですね。

そこで今大きく壁にぶち当たっているんです。これは一例なのですが、まず言いたいことは、空き家はいっぱいあるのだけど、その持ち主の方にそういう需要があるとい

う働きかけをする機能がないということです。

賃貸みたいな商売になるとまったく別のところでそういうシステムはあるのですが、空き家を対象にしたそういうシステムが全くない。

これは大きな埋もれた財産だと思います。移住者がいるのに、全くそれをつかめていない。つかむために空き家をいかに使えるようにしていくかということは、本当にこれは大きなポイントだと思います。これを注目してシステムを作っていくのはかなり大切なことだなあという風には思います。

○太田委員 空き家の件では、正直自分も2年前に勝山で家を探す際にも非常に困難した部分です。多分アパートだったりとか、そもそもそういう建物自体の需要がないというのは現状として、勝山の状況上、人口の流動がそうそうないから、アパートなども、あるのはあるけど、全然空かないというのがまず一つ根本にあるんですね。

それは出て行く人が少ないという意味では、住みやすい町の捉え方としては合っているのかな、と思うのですが、逆に新しく来る人に対して全然空きがないということもあると思うので、そこは早急に何かしらで解決していくべきところかなと思います。

空き家自体の考え方についても、地域にとって空き家を利活用しようというリマインドを生み出すための取り組みは本当に必要だと思います。

特に福井県の他の地域になったりすると、美浜町では地域の不動産関連の人だったり、建材屋さんだったり、まさにそういう人たちが一丸となって、この空き家問題をどうにかしないといけないということでNPO法人を立ち上げて、民間に対して空き家を負の遺産じゃなくてポジティブな遺産にどう変換するかという、そもそものマインドのところからきちんと積極的に動いてる活動があったりするんですね。

他市の取り組みだったりとか空き家の解消率みたいなものを、せめて福井県内でも参考にできる地域はいくつもあると思うので、まずそういうところで積極的に動いていくことです。

自分も行政に積極的にアプローチしている部分ですが、空き家バンクが全然更新されていなかったこともあるので、空き家に対してのマインドがそもそも負の遺産だったりとか、使って欲しいというのがあっても、なかなかそれをオープンにできない、悪い言い方をすると、あそこって誰かが亡くなった家だよねという悪い情報しか出てこなくて、なかなか利活用しようという気にならなかつたり、そういうのを危惧して行政もなかなか情報を開示しないというのはあると思います。

まずは根底にあるマインド、空き家ってどういうものなの、これを残しておくとならしてそれは自分の資産、子だったり孫だったりの資産になる、それともならないみたいなところを、情報のところから整理して、民間に対して取り組む必要があるのかなと思います。

是非行政には積極的に旗を振って動いてもらうことで、各企業との連携だったり、

例えばシェアハウスとして開放して、移住して3年間は働きながら住めますよ、というようなゆるい使い方、がんじがらめにしないような活用の仕方考えた方がいいのかなという風に考えています。

○石塚委員 今の話と若干被るところがありますが、大野市の方で起業される方の取材をしたことがあります。

その方は他の地域から移住されてこられて、地域の方の協力で商店街の空き家をリノベーションしてお店を開いたという方なのですが、その際にですね、なかなか来た当初は、全然知らない所から来た方だったものですから、地域とのつながりとかそういったものが全然なくて、苦労したというところがあったんですね。

そういったサポートって当然行政の方でもしてくれると思うのですが、結局その方も実際に開業にこぎつけるまでに2年半ぐらいかかっているんです。その方も目的を持って、わざわざ福井県を選んで東京から来た人なのですが、それでも、こちらに来てから大変苦労されている所があったので、せっかく選んでくれる人に対して、そういったサポートを手厚くすれば、それはその先の移住にも繋がるんでしょし、対応して地元で新しく店舗開いたりとか、店を持ったりとかしてしてくれると、それはまた後で税収でも雇用の面でも繋がる、実情に即したサポート体制がもう少しあればいいのかなという風に思っています。

もう一つは、ジオパークや観光に被ってくるかなと思うのですが、実際若い方は高校から大学に進学するにあたって、たしか7割ぐらいいは何かの形で勝山を離れてしまうんじゃないかなと思うのですが、残りの3割の方は地元の企業とかに残るんです。

その方たちに対して、例えば、起業することに対する指導みたいなものとか、プログラムじゃないですけど、そういった体験とか、経験者の方の話を聞いたりとか、そういうことが指導できれば、それはいわゆる観光産業にも繋がるし、地元の若い人達の起業、働く場所にも繋がるんじゃないかなと少し考えたことがあります。

○大石橋委員 今石塚さんがおっしゃっていた3割の人は福井とか勝山に残られるという事なのですが、もっと勝山に根づく人材を育てるために、学校の活動として小中高から、勝山の観光や職業、あと経済活動について、総合の時間などで、もっと考える機会が増えていくといいかなと思っています。

先ほど恐竜学科もここで検討されてるとのことだったのですが、改革的なプランを考えるだけではなくて、実践的に活動することで、より子供達も考えられるんじゃないかなと思います。例えば観光案内をする機会を持たせてあげたりとか、あと経済活動で言うと、喫茶店でパンを作ったりお菓子を作ったりして、そういったものを振る舞える機会を持たせてあげる。それをたった1回ではなくて毎月第四木曜日にありますと

か、そういう定期的な活動を決めていくと、子供達もより目標を持ってできるんじゃないかなって思いました。あと子供達も少なくなっているの、大人達の手厚い支援も可能な部分も出てくると思うので、そこで高齢者の方に来ていただいて、手厚い支援をしていただけると良いのかなという風に思いました。

あと職場体験なのですが、14歳の挑戦とか高校生だと今年1年生なのですかね、職場体験とかをされてると思うのですが、中学校とか高校の時に1回きりではなくて、もし可能ならば回数とかを増やしてあげると勝山の企業について、考える機会が増えてくるので、勝山の企業に入りたいなって思う子も増えるんじゃないかなという風に思いました。

- 塚本会長 何年か前に勝山の繊維関係の工場とかを見学させてもらえるツアーがあって、それに娘と一緒に参加させていただいたのですが、最新の水を通さない繊維、避難所などの仮設シャワーで、うまく水が流れていく繊維など、色々見せていただいて、娘も食いついて見ていました。

地元でこういうものがあるということ、実際どれだけのお子さんをご存じなのかはわかりませんが、地元でどういう企業があって、どういうものが作られていて、開発されている、ということを知っていると色々変わってくると思いますし、もともとその会社で働いていた高齢者の方がそういう案内や紹介をできると、色々繋がりも出来ていいのかなという風に思いました。

- 未来創造課 辻 今の大石橋委員からのご指摘で、実践的な事ということで、今日たまたま福井財務事務所の方のご紹介で、ある企業さんとお話をしまして、その企業さんがやっている事例を少しこの場でご紹介させていただけたらと思います。

ボンボンタウンというイベントをやっているところで、資料は準備していないのですが、ネットでボンボンタウン野々市などで調べていただくとヒットすると思います。

いわゆるキッズニアという職業体験をしているような、まち全体を子供たちで作って運営するというイベントをやっているらしいです。

例えば教育会館のホール一階全部を使って子供達が自分のお店を出したり、その子どもたちで運営している職場で働いたり、そこは町なので町の市長さんを自分達から選挙で決めたり、疑似通貨ということで、その町だけで使えるお金を使って、お金がもし稼げたら税金を納めたりとか、そういった自治体に必要な情報をぎゅっと詰め込んだようなものをイベントでやっているという風にお聞きしました。

これがいいなと思ったのは、起業体験、実際に起業を支援してる大人の方からアドバイスを頂いて、起業するにはこういうことが必要なんだよということをやかなりリアルティをもってやっているイベントだということです。

前々回の審議会でも今の中学生は喫茶店がしたい子が多いという話があったと思

いますが、小学校のうちからそういう疑似体験をして、中学校・高校である程度分別がつくようになったタイミングで、今度は周りの大人が支援して、実際に本当に商売をしてみるというようなところ、そういったものを作れたらいいかな、というのを今日その話を聞いていて思いました。

ここから先は自分の勝手な思いなのですが、今中学校の統廃合が進むと中学校の施設がどうしても空いてきますので、そういった空いた公共施設、今委員の皆さんからもありました空き家なんかも、こういったところでうまく活用できるような仕組み、そこに高齢者の方がうまく絡んでいただいて、例えば昔大工さんだった方がその子供達に技術を教えてあげて、それを町の役に立てたり、喫茶店をする時に調理師免許を持っている高齢者の方がお手伝いをしてあげたりということも少し広がりがあるんじゃないかなと思いました。

話を戻しますと、大石橋委員が言った通り子供の頃から実践的なことをさせていくということがコンセプトの中にはありましたが、生きる力を養っていく一つのそういった手段になってくるのかなという風に、私は感じました。

○小泉綾委員 勝山商工会議所の青年部の方でも体験イベントみたいなものを開催しています。民間も色々考えてやっています。行政だからできること、民間の方がやりやすいこともあると思うので、コミュニケーションというか、繋いでいけたらなと今日聞いていて思いました。

○塚本会長 ありがとうございます。やっぱり繋がりをネットワークでやっていくのはひとつ重要なことなのかなと思います。

○太田委員 若者と高齢者の好循環のあるまちというのは、自分としても非常に貴重であるし重要で、かつこれは成し遂げるべきところかなと思っています。

それこそ職業の多様性だったりフリーランスが増えていても、小さいまちでは仕事の数や、やりたい仕事がなくなっていく中で、スキルシェアじゃないですが、高齢者が今まで培ってきた経験などを若年層に流していく部分だったりだとか、もしくは逆に若年層の子育て世代が負担を減らすために、子供を預けるのに保育園幼稚園以外の選択肢を作っていくってすごい必要だなどは思っています。

若者って括りと高齢者って括りにも結構多様な捉え方があると思いますし、何歳以上ならやってくれるのか、何歳になると私はもう下に教えなきゃいけないのか、とかそういうものも、多分住民からは絶対に意見が出てくると思うので、目指すべき像としてはすごくいいと思うのですが、具体的にこの好循環が生まれている状況のイメージをすごく細かく落とし込む必要は絶対にあるなと感じています。

若者の中でも、求めたい人もいれば求めたくない人もいるだろうし、高齢者にとっ

でもおせっかいで色々言いたいけど、絶対何か言うと嫌厭されるよねという心理的にギャップというかハードルはすごくあると思います。

これを起こすためのマインドって行政がなんだかんだと言ってもあまり響かないと思うのです。具体的なアクションに落とし込める制度だったりとか、そういった場所だったりとか、先ほど話にあったイベントでもいいですし、そういった部分で具体的にアクションに落とし込むためのアクションプランが必要だと思います。

細かい部分まで落とし込めたら、よりまちも好きになるし、先々の部分としても、小学生だったりとか中高生の時の進路相談で迷った部分とかにもちゃんと還元できる、常に上から残るし、自分も下の世代に伝える橋が架かるイメージをアクションとして起こせたらいいんじゃないかな、と思いました。

○塚本会長 マストで何かしないといけない、というのはつらいので、みんなが繋がれる場所や情報を提供して、ということになると思うのですが、先ほどおっしゃっていた通りで、マインドだけではなく、具体的なスペースや情報を届けていくのは行政もしっかりしていただけたらと思います。

○松田委員 起業についてはものすごく私も興味があるところなのですが、確かに子供達に何か起業を促すような事というのも大切だし、そういったような精神を育ぶことも大切なのですが、実は高齢者の方がよっぽど起業をすべきと言うか、起業をしてちゃんとできる要素は高齢者の方があると思います。

人生経験も多いし、子供に比べるとお金も持ってるし、長年生きてきた人脈もあるだろうし。なので、先ほど子供の4倍お年寄りがいるという話があったので、お年寄りの方にも、第二の人生というか、リタイア後の人生に何か起業を促進するような雰囲気というか空気作り、そこに若者も一緒に絡むといいと思います。

高齢者が4人集まって何かケーキ屋さんを始めるでもいいです。働き手が必要であればケーキが好きな10代の高校生を取り込んで、今のところはその子達に任せてやるし、人生経験と言うかそういう社会的な経験は、シニア層が担うという風にしてもいいと思います。子供だけに起業しろと言わずにまずは大人が示すと言うか、まずは大人がどんどん起業するというような空気を作れるといいんじゃないかなって今聞いていて思いました。

○塚本会長 若者と高齢者の交流や起業は働き方に関しても重要なんだと思います。ありがとうございました。

○織田委員 先日の福井県内のインターンシップを受け入れたんですが、その時に学生さんの話とか聞いたり、今勝山高校の文化祭の衣装の型紙の作り方をサポートし

てる中で、やることがすごく多いので学生さんは本当に忙しいなと思いました。

例えばですけど、先ほどの話で出ていました勝山の企業の事を知っていただく、興味を持っていただく時間というのが少し少ないのかなと思うので、そういう時間をしっかり取れるような体制があればいいのかなと思います。

市内ではないんですが、今県内の繊維関係の企業さんと組んで、繊維関係の学校の生徒さん等をツアーで受け入れて、最終プロダクトまで見ていただけるような内容だったりとか、こういう技術があるとか、副産物がこういうものがあるということをやらせてもらっています。

本当にただ知っていただくだけではなかなかできないので具体的な内容が構築されれば、それも一つの手段かなと思います。ただ見て欲しいだけでは生徒さんの時間もないということもあって、そういう時間を作ったりとか、学校の授業に関わることはなかなかすぐは難しいと思うのですが、そういうことも一つかなと思います。先ほどから出ているまちづくりの中での要素であったりとか、そういうところも、知ってる方と知らない方がいると普及もしにくいと思うので、今回のポイントの中に入れていくといいなと思って聞いていました。

○松田委員 中村さん第2回総合行政審議会の時に、大阪から6、7年前に帰ってこられたっておっしゃっていましたよね。それは何故帰ってきたのかなと思って、お聞きしてもいいですか。

○中村委員 両親が老老介護になりつつありまして、二人で支えあっていたんですが、それが崩壊したからです。私は自分で事業を持っていますから、場所を選ばなかったと、それだけの理由です。

○松田委員 じゃあ元々の仕事は、こっちに帰ってきたけど続けることができていくことですね。そういう方をどんどん取り込めばいいということですね。ありがとうございます。

話は変わりますが、コロナで色々なイベントがなくなってもものすごく時間ができたので、温度計を作ってきたんです。今ランプは黄色が光っているのですが、黄色は大体20℃から25℃で光るようにしています。25℃を超えると赤色になるようにしてて、20℃を切ると青色が光るようにしました。第2回総合行政審議会の時に、川に雪を流すと詰まって困るって話を聞いたので、今年お盆返上して作ってきた川の温度計です。ここを今20°に設定していますが、プログラムを書き換えれば2度で黄色とか5℃で赤色とかにもできるので、そういう風書き換えて事務局にプレゼントしようと思います。はいどうぞ。

- 未来創造課 辻 以前松田委員と私が喋っていた時に、地域のお困りごと、例えば高齢者が抱えてるのは地域の困りごとをプログラミングを学んだ子供たちが解決してあげるような、そういった仕組みもできないかなと、お小遣い程度をお年寄りから子供がもらえて、それを原資に次のプログラミングとか、こういう発明をしていくということもひとつ、すごく大事な若者と高齢者の循環になるのかなということでも今少し無理やりに紹介していただきました。すみませんお時間頂きありがとうございました。

3 閉会

閉会の挨拶

- 中村委員 はい今日のご苦勞様でした。高齢者が増えていくということが大きなメリットとしても捉えられるというような意味づけ合いでありましたが、今一つだけ言わせてください。

最近、白山神社の掃除の仕方をもっと合理的にやろうということで、私進めているのですが、高齢の方の抵抗が大きくてですね、若い人はもう楽になりたいということで、合理化にすごい賛成なのですが、お年寄りの方は反対なのです。

多少楽になるのはいいんだけど、大きく変わっていくことにものすごく抵抗感がありまして、多数決をするので負けちゃうので結局元のままです。区長としてこういうものに待機している現状です。だからこら辺も実は大きな壁があると、現実はなかなか厳しいということです。最後の締めにはならないかもしれませんが、そういうことも現実だなという風に思います。

本日はご苦勞様でした。